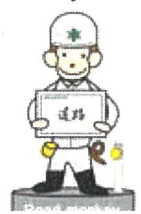


# 東北自動車道の社会実験を実施しました！

## ～「使える道路」への転換を目指して～

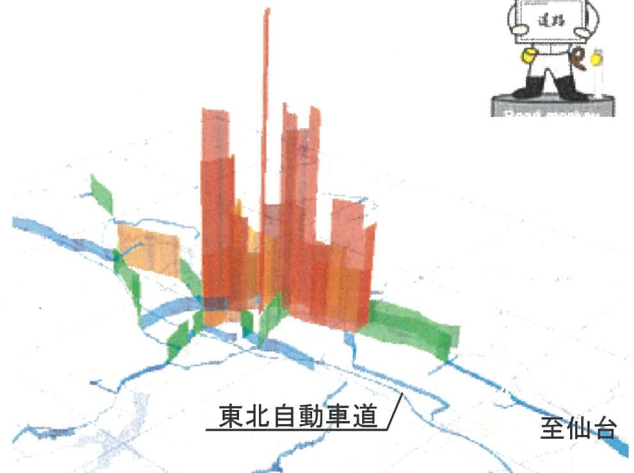


### ■はじめに

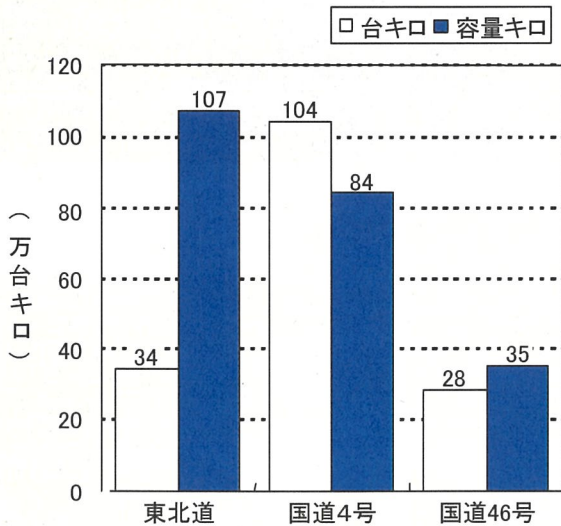
近年、我が国の社会経済活動の進展により、増加した自動車交通に伴う沿道環境や交通渋滞の面での問題が発生しています。

特に交通渋滞は、交通の円滑な流れを阻害し、時間損失を増大させることによる社会経済への影響、排気ガスによる大気汚染、地球温暖化を助長しています。

このような道路交通における課題解決の施策として、平成16年度から、一般国道の指定区間において、施設整備と料金施策との間で、有効性、効率性の比較を行うため、多様で弾力的な料金施策に関する社会実験が全国で実施されています。



▲盛岡都市圏の渋滞損失時間



▲東北自動車道と国道4・46号の交通容量

### ■本県の状況

盛岡都市圏における東北自動車道と一般道路の利用状況や一般道路における現状を見た場合、盛岡都市圏には岩手県全体の渋滞ポイントの約5割が集中し、渋滞損失時間は約1,230万人・時間/年（渋滞損失額 約330億円/年）と県全体の約4割を占めるなど、本県にとって、盛岡都市圏の渋滞緩和は重要な課題となっています。

特に、国道4号、46号においては、盛岡中心市街地の一部区間で旅行速度が低下し、70万人時間/km・年の損失を超える区間も存在するなど、渋滞が著しいものとなっています。

一方、東北自動車道は、日交通量が2万台程度と、その交通容量から見れば、十分に活用されていない状況にあります。

### ■そこで「社会実験」！

このような状況から、今回、交通混雑の著しい一般国道4号等に並行する東北自動車道において料金割引を行い、交通の転換状況を検証し、今後の課題解決策に反映させるため社会実験を実施しました。

社会実験実施にあたっては、学識経験者の協力を得ながら、関係機関等が広く連携する必要があることから、実施主体となる「岩手県東北自動車道社会実験協議会」を設立し、実験を進めました。



▲国道4号茶畑交差点の渋滞状況

●実施主体：岩手県東北自動車道社会実験協議会

□委員長：元田良孝（岩手県立大学総合政策学部教授）

□構成団体：岩手大学、盛岡商工会議所、(社)岩手県バス協会、(社)岩手県トラック協会、岩手県警察本部、日本道路公団東北支社、国土交通省東北地方整備局、岩手県、盛岡市、滝沢村

□協議会の目的：一般道路の渋滞緩和のため、有料道路の料金を割り引くことにより一般道路からの交通転換を促すとともに、実験方法等の検討や効果・影響を調査すること。

●実験期間：平成16年10月18日(月)～12月17日(金)

□【期間前半(約3割引)】10月18日(月)～11月14日(日)【28日間】

□【期間後半(約5割引)】11月15日(月)～12月17日(金)【33日間】

●対象区間：滝沢IC～盛岡南IC

●対象車種：全車種（ETC含む）

●調査・分析

□交通流動の変化 □渋滞の改善状況 □騒音の削減効果 □実験の評価（アンケート調査）

●ホームページ <http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/seikatu/kousoku/jikken/index.htm>

■実験結果

国道4号等の一般道路の調査結果は、現在、国土交通省において検証中ですが、東北自動車道の交通量のデータを入手しましたので、お知らせします。

難しい計算はここではしません（私にはできません）が、右のグラフをなんとなく眺めると、料金を割り引いても損失を出すことなくペイしているように感じるのは私だけでしょうか？

今回の実験の目的が、「盛岡都市圏中心部の国道4号等の一般道の渋滞緩和と沿道環境の改善」と「交通容量に余裕のある東北道の有効活用」なので、一般道における効果がどの程度現れるかによると思いますが、料金割引によって目的のひとつである「既存ストックの有効活用」がこれだけ図られるのであれば、実験で終わるのではなく実現する可能性もあり得ると個人的に考えています。

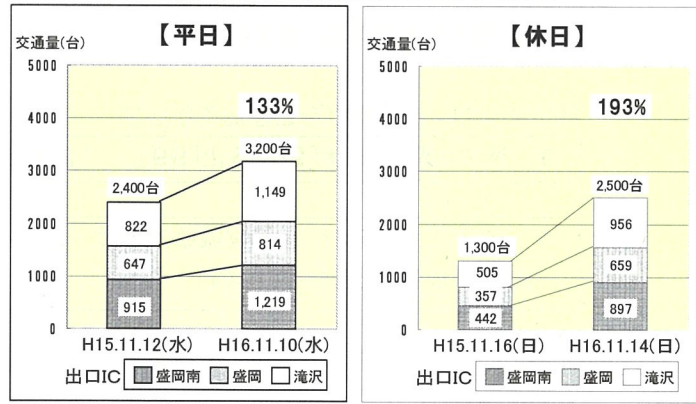
今回の実験結果をもとに、料金割引の導入を検討することとされているので、今年度開催予定の第3回協議会での調査結果の発表を楽しみにしています。

■おわりに

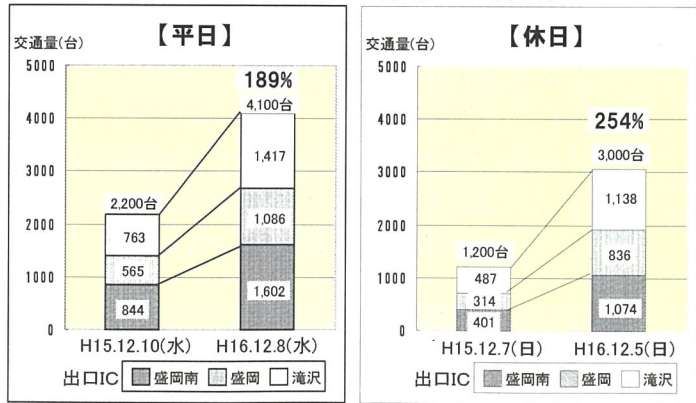
日本の高速道路は「IC間が長くて使いにくい」とか、「どうしても割高感が拭えない」という皆さんが持っている感覚を私も持っています。

しかし、今回、本県の東北自動車道で実施された料金割引の社会実験の他にも、有料道路における社

実験区間内の交通量推移（3割引）



実験区間内の交通量推移（5割引）



会実験として、スマートICの社会実験も全国で実施されており（平成16年度は実験候補箇所として35箇所が登録されました）、これらの実験の効果が実証され、「使える道路」への転換が図られることを大いに期待しています。

（文責 ■道路建設課 石川）